

グリーン四国

四国森林管理局



高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088 - 821 - 2000 四国山の日

FAX 088 - 821 - 4834

ホームページアドレス <http://www.shikoku.kokuyurin.go.jp>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp

No.1066 2009年1月号

頌春



四国山脈冬景色（伊吹山付近）



「グリーン四国」に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



環境に配慮した植物性大豆油インキを使用しています。

年頭挨拶



四国森林管理局長

中山 尊 裕



新年あけましておめでと
うございます。

皆様におかれましては、ご
家族共々お健やかなお正月を
お迎えになったことと心から
お慶び申し上げます。

昨年の米国に端を発した金
融危機が実体経済にも波及し、
世界同時不況の様相が強まっ
ています。日本の雇用・消費
などの社会経済にも悪影響を
及ぼし、景気は後退局面に入
っています。こうした我が国
の社会経済情勢の下、国有林
の管理経営を担っている私ど
もは、最大限の努力を行い、
民有林を担っておられる各県
担当部局、関係機関等と一緒
になって地域の雇用と経済の
改善に向け少しでもお役に立
ちたいと思っています。

さて、昨年は、一月から京
都議定書の第一約束期間が始
まるとともに、七月には、北
海道で洞爺湖サミットが開か
れ、地球温暖化防止をはじめ
さまざまな観点から森林・林
業の大切さや森林整備の重要
性と緊急性が改めて認識され
ました。また、四国では、愛
媛県で、去る十月二十五、二
十六日の両日、皇太子殿下を
お迎えし、「育てよう 緑あふ
れる 日本」の未来」をテーマ
に第三十二回全国育樹祭が、
盛大に開催されたことも記憶
に新しいところです。

こうした中、私どもの局と
しては、各種の事業を着実に
実施するとともに、国民に開
かれた森林づくりをめざして
さまざまな取組を行いました。

既に締結している愛媛県、香
川県に続き、三月には徳島県
と、十一月には高知県と、そ
れぞれ「森づくりに関する覚
書」を結ばせていただきました
。現在実行されている森林
の整備・実施協定の実績
の上に立って、森林整備、地
域材利用、森林環境教育とい
ったさまざまな面で、今後、
四国4県と一緒に民有
林、国有林連携した事業を展
開していくこととしています。
また、八月には「四国の森林
づくり子どもサミット」、九月
には「美しい森林づくりに関
するシンポジウム」、十一月に
は高知県で「四国山の日」の



「四国の森林づくり子どもサミット」(平成20年8月26日・27日)

イベントを行いました。地域
の皆様のお力添えを賜り、い
ずれの行事も成功裡に終える
ことができました。この場を
お借りして、改めてお礼申し
上げます。

本年は、京都議定書の約束
期間の二年目に入り、間伐等
の森林整備をはじめとする森
林吸収源対策をより一層加
速・定着させるとともに、「美
しい森林づくり推進国民運動」
が更に地域に根づくよう地方
自治体、林業団体、NPO関
係者などのご協力を得ながら、
積極的に推進してまいります。
こうした取組に際しては、従
来にも増して、民有林とも連
携した木材の安定的・計画的
な供給と木質バイオマスも含
めた木材の有効利用といった
点に配慮していく必要がある
と考えています。また、生物
の多様性や森林の保健休養機
能(心身を癒やすセラピー効
果)といった社会的なニーズ
にも意を用いて事業を実施し
ていきたいと思っています。

さらには、「健康」、「環境」と
いった国民の価値観に沿った
需要や公共の利用といった面
についての地域材の利用拡大
方々とも情報交換をしながら



「美しい森林づくりに関するシンポジウム」(平成20年9月28日)

一緒に対応していきたいと考
えています。

今年も、「国民の森林」とし
て親しまれるよう地域の皆様
や国民の目線に立って仕事を
行うとともに安心安全な国土
づくりに向けて事業を推進し、
四国の森林・林業・木材産業
が元気になるよう、そして、
地域社会に貢献できるよう頑
張ってまいりますので、関係者
の引き続きの応援を宜しくお
願います。

最後に、本年が皆様にとり
まして幸多き年となりますこ
とを心から祈念いたしまして、
新年のご挨拶とさせていただきます。

効率的な森林整備と 路網整備の実行

— 森林の公益的機能
発揮に向けて —

〈森林整備課〉

森林は国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全等の公益的機能の発揮に大きな役割を果たしています。また、近年では、森林に対する国民の期待や要請が、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林環境教育や木の文化の継承への貢献等、さらに多様化しています。

このような状況にある中で、公益的機能の高度発揮に向け現地の実態を考慮した適切な森林施策と、その基幹的な役割を果たす林道の計画的かつ効果的な整備は一層重要となっています。森林整備課においては、これらの業務について、各署等と十分連携を図り計画的な事業実行に努めています。



保育間伐実施後の状況

今年度の森林整備については、地球温暖化防止に係る森林吸収源対策として



食害防止チューブ

シカ食害防護ネットの設置

約五六〇〇haの除伐・保育間伐を計画している他に、主要な事業として植付、下刈等の作業を現地の実情等を考慮し実施しています。特に、植付については、シカの食害防除対策として防護ネットや食害防止チューブ等の被害防止施設の設置を講じることとで確実な植栽木の活着と健全な森林の育成に努めています。また、森林病虫害の防除については、名勝地及び海岸防風松林等の松くい虫の被害対策として、地上から動力噴霧機などを利用して薬剤を散布する地上散布や薬剤を樹幹に注入して防除する対策を講じています。さら



間伐材を利用した木製ガードレール

対応に適切な考慮した

伐倒駆除についても実施するなどの被害の蔓延防止に努めています。一方、林道の整備については、森林の適切な整備や保全を行うため、投資効率や景観などに十分配慮しながら、他事業との連携を図りつつ、今年度八・五kmの新設を計画するなど効果的な整備に努めています。また、整備に当たっては現地で発生する木材や土石を土木資材として活用することや間伐材等の木材利用に積極的に取り組んでいます。更には、四国森林管理局管内にある五二九路線、二二二九kmの林道の維持管理について、安全



薬剤の地上散布

には、被害木を伐倒し、くん蒸処理を施して幼虫を駆除する

今回の技術開発委員会では、技術開発委員である森林生態学、林木育種、遺伝資源、民有林管理経営の専門家から、平成二十一年度の中間報告（開発期間の三年目）課題である「保育作業の省力化による森林育成技術の確立」、完了報告課題である「地球温暖化傾向に伴うヤナセスギ等の成長促進効果の検証作業につ

十二月四日、局において、今年度二回目の技術開発委員会を開催しました。

技術開発課題に 厳しい意見と期待

第二回技術開発委員会を開催

〈指導普及課〉

努力しています。森林整備課においては、今後森林に対する国民の期待や要望及び安全で快適な自然環境の保全に適切に対応する考えのもと、各署等と連携を深め、地域の状況に応じた効率的な森林整備とその基盤となる林道整備に日々努めてまいります。

なお、これらの事業については、局一階の森林ふれあい館において、一月十日から三十一日まで、パネル等で紹介しますの是非ご覧下さい。



技術開発委員会の様子

いて、「平成二十一年度の技術開発重点課題となる二十年度中間報告と同じ「保育作業の省力化による森林育成技術の確立」の三課題について、技術開発の調査結果及び今後の進め方等について意見を聴きました。

委員からは「開発目的を達成するためには、調査プロットを増やす必要がある。」「調査データは地形条件等にも影響されることから、プロット毎に条件等の違いをキチンと押さえていく必要がある。」「プレゼンテーションに当たっては、説明する内容に沿った分かり易いものとする必要がある。」など、今後の進め方等に対する厳しい意見と技術開発課題への期待を頂いたところであり、今後の取組に活かしていくこととしています。

「世界に一つシリーズ①」

「マイ」箸「づくり」

〈指導普及課〉

十一月二七日、高知西高等学校において、選択授業で「発達と保育」を選択している生徒十二名を対象に、森林教室、木工教室を実施しました。

家庭科講師から、「生徒たちに木工製作を通して、木に触れ楽しみながら、刃物の扱いにも慣れてもらいたい。」との依頼があり、また、家庭科の授業で箸袋を製作しているとのことであったので、マイ箸、箸置きづくりとなりました。

初めに、森林の働きと日本で使われている割り箸の現状を説明すると、マイ箸づくりに意欲が湧いてきたようでしたが、普段使い慣れていない刃物を扱う



マイ「箸」づくりの様子



完成したマイ「箸」セット

のは容易ではなかったよう
で、カットナイフの持ち方にも戸惑い、「手が痛い」、「腕が痛い」と大騒ぎでした。それでも、ヒノキの角材が徐々に箸の形になってくると、夢中になっていき、一生懸命に木を削っていました。

やがて、角材を削り終えた生徒たちは、荒削りした箸を紙やすりで丁寧に磨きながら、「木の良い香りがする。」とか、「ツルツルして綺麗。」と驚きの声を上げていました。

最後に、電気コテで名前を焼き付けると、「名前が入ったら、すごく愛着が湧く。」、「最初に何を食べよう。」と大喜びしていました。最初は全員完成するのだろうか…と不安だった我々もホッと安心しました。

生徒たちが作った作品は、それぞれ個性があり、前回の家庭科の授業で作ったというオリジナルの箸袋と併せて、世界に一つのマイ箸セットができあがりました。

「世界に一つシリーズ②」

「マイ」クリスマスツリー「づくり」

〈指導普及課〉

十一月二九日、高知市にあるホームセンター ハマート蕪野店において、「大人から子どもまで自分で作るミニチュアクリスマスツリーづくり」と題して、木工教室を実施しました。

これは、同店から、枝や実など、木材製品としては流通されていない自然素材の有効利用の機会を広く一般に提供したいとして、当局に木工教室の協力要請があり、連携して実施したものです。

同店が事前にチラシで宣伝していたこともあって、木工教室の開始時間前から参加を希望する方が訪れ、子ども連れの親御さんや、大人の女性グループなど、延べ二十七組が参加しました。



完成したマイ「クリスマス」

参加者は、自分好みのクリスマスツリー、クリスマスリースにするため、普段使い慣れていない刃物の扱いに悪戦苦闘しながら、また、たくさん素材を付けてきれいに飾りたいの思いから、夢中になって作っていました。

参加者によつては、二時間以上かけて作った方もおり、世界に一つだけのマイ「クリスマスツリー、クリスマスリース」に満足して帰って行きました。

「国有林材PR月間」で

記念市等盛大に開催される

〈販売課〉

十月～十一月の「国有林材PR月間」中の取組として、民間市場（高知県内外での記念市等）において、ヤナセスギやスギ・ヒノキの高齢級材を出力し国有林材のPRを実施しました。

木材については、依然として価格の低迷が続いており、なかなか上昇の兆しが見えない中で、秋口の木材需要期となり、各市場では、県産材の普及宣伝や利用拡大を図るため優良材を集め記念市（展示即売会）を毎年開催しており、四国森林管理局においてもPR月間中の取組として、不振打開の一助になればとの期待を込めて出展しました。



高知県においては高知県林材で実施された「木材まつり」やゲンボク市場で実施された「ドライログ・優良材展示即売会」、徳島県・愛媛県・愛知県で開催された各記念市等にヤナセスギやスギ・ヒノキの高齢級の国有林材約二五〇㎡を出品し、国有林材の普及宣伝と併せて木材業界の振興発展に寄与しました。

また、高知県及び徳島県の記念市においては、共催者として育林技術の向上等に努められ、優れた民有林材を出品した者に対して四国森林管理局長賞の表彰も行いました。今後益々優れた県産材として「ブランド化」を図るよう民・国・業界が一体となった取組を進めて行くと共に、国有林材のPRに努めていくこととしています。

各地の たより



四万十川流域の 森林・環境を考える

— 中高生がフィールドワーク
— (ふれあいセンター)

四万十川流域の国有林で、今年も中高生のフィールドワークが実施され、四万十森林管理署とともに支援しました。

十一月四日は、四万十町にある四万十高校と十川・昭和・大正・北ノ川の各中学校の生徒七十七名が、津野町にある船戸山国有林を訪れました。

今回は、四万十川流域の森林生態系を学習し、自然のあり方を考えるきっかけにしたいとの目的で、源流点や源水の地があり原生林が残る「不入山」と、



いらざやま「不入山」での学習の様子



間伐体験の様子

代表的な人工林である「西の千本」をフィールドとしました。各ポイントでは、四万十森林管理署とふれあいセンターの職員が、林況や複層林施業、「郷土の森」などについて説明しました。「源水の地」では、四万十川の始めの一滴を見学、疲れも忘れて感動の様子でした。「西の千本」では、既に「魚梁瀬千本山」を見学している四万十高校生が、比較しようと熱心に説明を聞く姿が見られました。

また、十一月十一日、横浜市の神奈川学園高校二年生三十三名が、四万十川の支流、黒尊川流域の「八面山」に登りました。

今回は、森と川の関係や自然や環境をテーマにして参加した生徒が多く、山歩きと眺望を楽しみながらも、シカの食害や土壌などの質問がありました。

また、宿舎で樹木当てゲームが予定されていることから、歩道沿いの樹木説明では、デジタルカメラで撮影したり熱心にメモを取ったりしていました。

午後は、黒尊山に移動して間伐を体験しました。

生徒たちは、間伐の重要性については、既に、学習していますが、作業は初めてで、職員から安全作業の心構えを聞き、五班に分かれて開始しました。ノコギリを手際よく扱う生徒、思い通りの位置に切れない生徒と様々でしたが、約一時間かけて各班二本程度の間伐ができ、満足そうな表情でした。

黒尊川流域での学習は一日だけでしたが、同校の近くを流れる鶴見川との違いを理解してもらおうフィールドワークとなりました。

森からの贈り物

木工クラブで笑顔いっぱい

(ふれあいセンター)

近年、木材は再生可能な資源として評価されています。

そこで、端材や間伐材の小枝などを活用したクラブ作りを通して、木の利用を考えたり森林や自然環境への関心を高めてもらおうと、小・中学校で出前



の木工教室を実施しています。

十一月六日は宿毛市の栄喜小学校、十三日は鬼北町の日吉中学校、十四日は松野町の松野南小学校に出かけ、動物の置物や携帯ストラップなどの作り方を指導しました。

最初に、木材の特徴や特性について説明してからクラブ作りに取り組みました。小学校低学年は、職員や先生の応援を受けながら携帯ストラップが完成、「お母さんのもつくりたい」の声がかげられました。高学年や中学生は、見本を参考にしながら独創性豊かな作品が完成、満足そうな表情でした。

子どもたちからは、「木材の話聞くことができてよかった」「今日の作品を大切にしたい」の感想があり、森林や木材への関心・興味に繋がる一歩となりました。

親子行事で 木工クラブづくり

(高知中部署)

十一月九日、香美市立大宮小学校一年生とその保護者三十六名を対象に木工クラブ作成教室を行いました。

恥ずかしそうな表情をうかべた子どもたちは、お父さんやお母さんなどと一緒に、当署手作りのキットでフクロウを作り、ホオノキのフレームに貼り付けました。最後に、ドングリヤヤシャブシの実などで、まわりを飾って完成し、仕上がった作品を満足そうにみせてくれた男の子からは「むずかしかったけど、お母さんと一緒に作る事が出来て楽しかったです。」との感想が聞かれました。



森林の再生と地域との交流

〈高知中部署〉

十一月八日、香美市香北町で、「フオレストランド二〇〇八」が開催されました。この催しは、香南市にあるルネサステクノロジ高知事業所が高知県と協働の森パートナーズ協定を締結し、森林の再生と地域との交流を目的として行われているものです。

当日は、あいにくの雨で、現地で予定されていた間伐体験や植樹体験が中止になったため、会場を屋内に変更して行われました。

当署は、間伐の重要性に関する話の外、木の葉当てクイズ、木工クラフト作成コーナーを担当しました。木の葉当てクイズ



木の葉当てクイズの様子

では、あらかじめ十三種類の木の枝を用意しておき、それぞれの名前を回答してもらいました。スギ・イチヨウなどの簡単な樹種にはほぼ全員が正解しましたが、シロタモ・ウラジロガシなどあまり馴染みのない樹種には苦戦していたようです。このゲームを通じて、森林を形作っている様々な樹木の存在を感じ取っていただけたと思います。

県境越え シカ食害防止活動

〈高知中部署〉

十一月十一日、三嶺の森をシカの食害から守ろうと、高知県側の大桁中学校と徳島県側の木頭中学校の生徒や先生達八十名余りが三嶺の麓、みやびの丘で交流行事や、樹木にネットを巻き付ける体験活動を行いました。

この活動は、「高知県森と緑の会」が主催したもので、高知中部森林管理署も応援しました。

生徒達は、現地で交流を深めながら、シカによる食害の実態を確認し、両県共通の課題について学びました。ササや樹木がシカに食べられて枯れている状況を、実際に見て驚いていました。お昼にシカ肉のすき焼きを食べた後、生徒達は協力して丘の周



シカ食害防止用ネットを巻く両県の生徒達

辺にあるモミやナナカマド、カエデ類など百八十三本に食害防止用のネットを巻き付けました。

生徒達からは「同じ山の麓で交流ができて良かった」「ネット巻きは大変だったけれど、森を守る大切さがわかって良かった」という感想が聞かれました。両県の学校同士がこの地域で協力して活動することはめずらしく、有意義な体験になったことと思います。

ふれあいの森で活動

〈徳島署〉

十一月十三日、徳島県那賀町の釜ヶ谷国有林「ふれあいの高城の森」において、高知林業土木協会会員三十名が歩道



活動に参加した皆さん

修繕・苗木の保護作業・枝打ちの三組に分かれ作業を行いました。

現地には剣山スーパー林道の崩壊・通行止めにより入山するのは約一年半ぶり、歩道には土砂や枯れ枝等が堆積し、昨年の春に植えた苗木は積雪による影響で幹が曲がり、お辞儀状態でしたが、会員の入念な作業で見事に回復できました。

当日は寒い日が予想されていましたが、晴天に恵まれ作業も順調に進みました。最後に「ふれあいの森」の看板をきれいに磨いて作業を終りました。

親子で動物作り

〈徳島署〉

十一月十六日、徳島市ふれあい健康館内の親子ふれあいプラザにおいて、ボランティアクループ「ともだちいいな」と協力し、木の枝で作る動物作りを開催しました。

同グループは、幼稚園や児童館等で絵本の読み聞かせや人形劇など、多彩な催しを定期的に行っているグループで、今回、徳島署が児童館で実施した木工教室の作品を見て、「是非とも子どもたちに作らせてあげたい」と協力の要請がありました。

当日は、午前と午後に分け合計六十個を用意しましたが、申込み多数で作れない親子も出るなど盛況の中、終了しました。

